

双塔



新潟教会 2015年 1月

No. 320

クリスマスと新年の祝福

主任司祭 ラウル・バラデス

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

主があなたを祝福されますように。

聖フランシスコの祝福

「皆さん、クリスマスおめでとうございます。それと、よいお年をお迎えください。」「明けましておめでとうございます！」

このような挨拶を何回も、耳にして、口にしながら過ごすこの時期は、教会の私たちにとってまだ降誕節で、クリスマスの雰囲気を感じさせる季節です。

典礼上では、主の洗礼の祝日まで降誕節として見受けられています。さて、冒頭によく知られている聖フランシスコの祝福を載せました。ご存知のとおり、元旦のミサの第一朗読として毎年朗読されます。

この聖句は、元々イスラエルの祭司が民の上に祝福を願うときに使われていました。主イエスの時代には、許しの日であった「ヨムキップル」の祝日に、大祭司は特別に大きな声を張り上げて「神の名」を唱えていました。普段、「神の名」のヘブライ語の聖四字は、朗読されるときに「主」を意味する言葉と入れ替えて発せられていました。

したがって、イスラエルの民は神のゆるしをいただいた時にこそ、神の本来の名を聞くことができ、神の本質を、耳を通して心にとめ、神との交わりを深く実感していたといえるでしょう。人は神からゆるしをいただくことによって始めて神に近づき、神と親しくなっていきます。友が互いに名前呼び合うと似たように。

今年一年、神様がしてくださったように、私たちもお互いにゆるし合って、より親しくなっていく良い年になるように願いたいと思います。

「主が御顔をあなたに向け」の文は、ユダヤ教では「お父さんは小さい子どもを高く上げるように」と解説されます。画にも見られるように、お父さんは、子どもより低くなってその子を守って支え、子は楽しく笑い、お父さんの顔を見つめているので危険を感じません。主イエスは、天の父の御顔を示すために人間となって、旧約時代のあの聖句が願う祝福を与えてくださいました。

こうして私たちも、今年一年間、天のお父さんと見つめ合って、安心して、平和の内に平和のために働きながら過ごすことができ、聖書時代の人々と同じ気持ちになって、昨年からは後にして、神様に心を開けることができたなら何と幸いなことでしょう。





そよかぜ便り



■『王であるキリスト』の祝日 ----- 11月23日(日) -----

～ 司教様の公式訪問 & 可愛い二人が初聖体 ～

年間最後の主日『王であるキリスト』の祝日は、新潟教会のタイトルの日。公式訪問の菊地司教様の司式でミサが行われた。司教となって、新潟に来られて10年。来年(2015年3月)は、7年に1度の教皇様への現況報告(アド・リミナ)に行かれると、お話を始められた。少子高齢化で日本の教会はどうなるかなど、ネガティブに考えやすいが、役に立つか否かというこの世の価値観ではなく、「神が、私たちが神の価値観で支配」されていることを思い起こし、多くの人々が「命」と「希望」を持つことができるために、私たちの生き方を示していくことが重要だと話された。ミサ中で、初聖体を受ける可愛い二人の姿に、どの人の顔にも微笑みがこぼれた。ミサ後には、司教様をお招きした茶話会も行なわれ、温かな一日であった。

■待降節黙想会(伴 八郎神父様指導) ----- 11月29日(土)・30日(日) -----

～ テーマ:受胎告知について ～

二日間にわたって行われた黙想会は、待降節にふさわしく、天使ガブリエルのマリアへのお告げの場面(ルカ1・26-38)をテーマに行われた。講話は、ドミニコ会司祭で画家としても有名なフラ・アンジェリコの『受胎告知』4点を中心に飛び石のように進められ、参加者はプロジェクターで映し出される名画と、そこに込められたメッセージを前に立ち止まりつつ黙想を進めていった。

二日目の講話の最後には、「結び目を解く聖母マリア」の逸話を紹介。教皇フランシスコが司祭としてドイツに留学していた時に会って以来、深い信心を持っているという。もつれた人間関係や複雑な問題が解決されないとき、それをもつれたリボンとして、聖母マリアに解いていただくよう祈ってみてはいかがでしょうか?と伴神父様は勧められ、黙想会は終了した。

■茶話会(国際協力部) ----- 12月7日(日) -----

～ あった会 集まり ～

月に1度の英語ミサの後、美味しそう～なおおいに誘われて信徒会館に入ってみると、茶話会で大賑わい。フェさん手作りのフィリッピンのおじやのにおいでした(美味しかった♪)。テーブルにはお菓子やフルーツ、飲み物がいっぱい。何よりも会話と笑顔がいっぱい!この日は全品10円のミニバザーもあり、「これ、ナニ?」「七宝焼き」「シッポ?!」と愉快的な言葉が飛び交いました。あなたも、温かな茶話会に寄ってみて下さい。



■主の降誕 夜半のミサ(クリスマスイブ) ----- 12月24日(水) 20:00 ～ -----

所々に残った雪に、夜になると強い雨が降り、足元が悪いことこの上なし。そのせいか、ミサの人出は昨年よりやや少なく、外国の方々の姿が目立つ。外光のない聖堂のステンドグラスに、稲光が走った。

菊地司教様が馬小屋に布で包まれた幼子イエス様の御像を寝かせた後、人々が持つろうソクに次々と火が

灯され、聖堂内は荘厳な雰囲気にも包まれた。

献香の煙が漂い、ミサは粛々と進む。ラウール神父様の福音朗読（ルカ2・1-14）後、司教様は「飼葉桶に眠る幼子は、父母の助けがなくてはならない小さな命のしるし」それは「家族の大切さのしるしである」と話された。

私たち一人一人がつながっている共同体としての家族も大切に、「それぞれが思いやる共同体をつくりあげたい」と結ばれた。

笑顔で「おめでとうございます！」と交わしながら聖堂から出てきた人々は、センターに用意された温かな飲み物を頂きながら話を楽しんでいた。

ミサ後は、ほぼ雨が上がり、静かなイブであった。



■主の降誕（クリスマス） ----- 12月25日（木） -----

~~~~ミサ & 祝賀会~~~~

前夜の冷たい雨とはうって変わって、ご降誕祭当日は雲の間から青空ものぞき、ミサ中は聖堂に薄日も差し込んだ。

ラウール神父様による福音書への献香と朗読（ヨハネ1・1-18）の後の説教で、司教様は、ヨハネ福音書冒頭のこの箇所には、天使も飼葉桶も、そこに眠る幼子も登場しないことを指摘。そして、旧約時代に預言者を通していくら語りかけても神から離れてしまう人間のありさまにも、そこで終わりにしようとはせず、ついには神のことばが人間となってこの世に生まれ、最後には人間の罪を背負って十字架を担われたほどの神の愛のあかしが述べられている、と指摘された。

経済的にも社会的にも厳しい状況の中で、人は自己防衛的になり、厳しく他者を裁き自己中心的になっていく。その中であって、教会に集う私たちの共同体がなすべきことは…と語りかけられた。

ミサ後はセンター2階ホールで祝賀会。手づくりの唐揚げやシチューなどが並び、乾杯の発声は三崎神父様。フィリピンでのお祝いの時のダンスやクリスマスキャロルも披露され、司教様も一曲を披露。最後に『キリストの平和』（作詞・作曲：塩田 泉神父）や『ひいらぎ飾ろう』を皆で合唱、祈りをもって散会となった。

二日間、準備をして下さった総務部・国際協力部のみなさん、ご苦労様でした。

ありがとうございました！

## 《みんなの広場》

イエスがヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、**東方の博士**たちがエルサレムに来て、尋ねた、「お生まれになったユダヤ人の王はどこにおられますか。わたしたちはその方の星が昇るの見たので、拝みにきました」（マタ 2-1～2）

### ～ ご存知ですか！？ ～

東方の博士とは「マーゴイ」の訳で、占星家とか天文学者のことです。

さて、この3人に名前がついていることをご存知でしたか？ヨーロッパでは、7世紀ぐらいから名前が付けられたそうです。



- ・写真左側：メルキオール（青年の姿で黄金を持つ）  
黄金は王権の象徴
- ・写真中央：バルタザール（壮年の姿で乳香を持つ）  
乳香は神性の象徴
- ・写真右側：カスパール（老人の姿で没薬を持つ）  
没薬は将来の受難である死の象徴

### エッ！見分け方ですか？

『髭の長さで、青年、壮年、老人と  
見分けるのだそうですよ。』



### 《2015年 1月の聖書クラス・信仰講座のご案内》

| 曜日       | 時間       | 内容           | 担当司祭   |
|----------|----------|--------------|--------|
| 月曜日（不定期） | 午前10:00～ | キリスト教のQ&A    | 三崎神父   |
| 水曜日（毎週）  | 午前10:00～ | 旧約・新約聖書から学ぶ  | ラウール神父 |
| 木曜日（毎週）  | 午後19:30～ | キリスト教入門      | ラウール神父 |
| 第2土曜日    | 午前10:00～ | 第二バチカン公会議の学び | ラウール神父 |

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。

